

イラストや写真を交えながら妖怪話や伝説をご紹介します。

* 画像はサンプルのため荒くなっています



間蔵(ヒメ)...尾又

山城町は、四国山地の奥深い所で、阿波(徳島県)の西の端に位置して土佐(高知県)、伊予(愛媛県)と境を接し、讃岐(香川県)境へも三十キロと近い国境に近い村です。明治以前はお上の許可なくはその国境を越えぬことが、原則として禁断されていました。

なかでも、山根谷から伊予・土佐へ通じる街道の尾又の土々ノオオ(峠)には間蔵大王がいて、通る人を地獄行きか、極楽行きかを決める恐ろしい所と言われていました。(畠田明彦)

ヒメノオオは付近にはヒメノオオカ、ヒメノナル、ヒメノタビの小字があり、その北の峰が間蔵山です。全国にあるシウウツカ、埴塚について柳田國男は「遠野物語」のなかで、「境の神をまじりし所にて地獄のシウウツカの神と関係ありし」と言及し「ヒメノオオ」の「阿波言葉辞典」でもシウウツカを「三途河の」として記述しています。

ヒメノオオのすぐ北には「埴塚」があり、西方には西方浄土を意味する「浄土」(古くは覆井山とも)、今は三徳示山(もあり)、国境を越えぬ世帯の境と考えられていたようです。

このヒメノオオ通じる街道の中野の地蔵堂には、本地地蔵菩薩とその化身とされる間蔵大王がまつられています。また、ヒメノオオには、大人峠、天狗峠の地名や、オオオ下の足跡、ヒメノオオカシラノメ、鬼城などの妖怪や、戦国の絵巻の伝説があとにのこっています。



巨人の里

大人と大うば...政友、相川、信正、下川

昔、政友に大人といわれる大男がいて、大和川には大きな女性のヨウバサマがいた。政友の父は相川の焼堂口で休んで、毎晩ヨウバサマの家へ通った。ある夜、大人がのどが通ったので山をまたいで相川谷の水をまくらぐ飲んだ。そのとき拳丸が谷水に浮かたのでそれをキヌマツカリといひ、またいた時の足跡をオオビトといふ。政友の足跡は東西十間、南北十五間、相川にあるのもほぼ同じくらい平坦地として山城谷村史(以下村史)にあります。

正徳検地帳(一七一五)や明治二十二年の土地台帳に、大和川名のヨウバサマ、相川名のオオビトノアトの小字があります。伝説の政友の大人の足跡は、大本家の東側の尾根の船底形の窪地に、相川のオオビトの足跡は、山城町の残土捨て場と「山」場との間に、ヨウバサマは「山」場、コノメ橋の東、西峰定一岩奥の谷間にあります。

「村史」によると、山城谷村では、徳長年間(一五九六)から砂金の産出を伝え、明治二十五年頃から、相川谷の支流三千谷の月岡家付近から下流を、舞鶴市や徳島市の人材採掘権を持ち、昭和三十年近くまで採掘が行われていました。砂金採りは、川へ入る時に腰が濡れるのをキヌマツカリ、キンツカリ編の話が生まれたとか、相川は陸奥金山の相川と関係が